本部だより

●第35号

マーシャル方面遺族会
http://mibfa1926.com

携帯サイト

●発行日：平成29年2月1日　●発行人：井上賀雄
●本部：〒180-0013　東京都武蔵野市西久保2-21-11
●電話 & FAX：0422-56-1847　●編集人：鈴木千春

ルオット島のプルメリア

謹賀新年

平成29年
本部役員及び篤志会員

名誉会長	朝香誠彦
会長	井上賀雄
副会長	高林芳夫
副会長	山口良二
副会長	米林義昭
常任幹事	川端堅太郎
常任幹事	鈴木千春
幹事	石澤洋子
幹事	岡村勝利
幹事	葛西　勉
幹事	小室洋子
幹事	佐藤知子
幹事	清水雅尚
幹事	中村順子
幹事	星野綾子
幹事	宮城　勇
幹事	吉田正明
監事	内海淑子
篤志会員	徳原徳子

ごあいさつ

井上賀雄

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当会は今年で創立54年を迎えます。当初の会員は英霊の父母や妻の方々が大多数でしたが、現在は会員の構成も大きく代替わりし、多くは子供の世代です。最近入会された方は、英霊の孫・ひ孫・甥・姪の方がいらっしゃいます。

この歴史ある遺族会が、次世代に引き継がれ、英霊の慰霊顕彰が末永く続けられる事を祈念いたします。そのためにも若い方の入会は大歓迎です。

本年も皆様にとって良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

平成29年度 慰霊祭、総会、直会のご案内

山口良二

本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り、開催いたします。

皆様お誘い合わせの上、ご参加下さいますようお願いいたします。

■慰霊祭

日時　平成29年4月2日（日）
　　午前10時より昇殿参拝
受付　靖国神社参集殿前にて
　　午前9時より受付を開始。
　　9時45分までに受付をお済ませください。参集殿2階の「楠の間」にてお待ち下さい。

■集合写真

慰霊祭終了後、「楠の間」にお戻りください。集合写真を撮影します。

■総　会

写真撮影終了後、総会を開催します。詳細は当日ご案内します。

■役員の改選について

役員の任期は二年で一期となっており、次回総会は改選の年に当たります。

役員会で、井上会長より、ご高齢及び体調不良のため、今期限りで退任したいとのお申し出がございました。

総会で新会長と監事の選出を行います。皆様のご協力をお願いいたします。

なお、副会長以下幹事については新会長が後日、指名いたします。

■直会（なおらい）旅行

本年も一泊二日の温泉旅行を企画いたしました。

総会終了後（12時半頃の予定）、靖國神社から観光バスに乗車し、南房総、安房鴨川温泉（千葉県）に出発します。

旅行代金　一名　2万5千円

翌日、朝、現地を出発し、午後4時30分頃、東京駅に到着予定です。東京駅で解散となります。

会員親睦のため、振るってご参加下さい。

※幹事・岡村氏　小室氏

※詳細は別紙をご覧下さい。

●お願い

1．慰霊祭 出欠はがき

同封の出欠はがきに必要事項をご記入の上（欠席の方も）、**2月末日までに本**

部に届くよう、ご投函下さい。

2. お振り込み

・年会費　３０００円

・玉串料　一名　５００円

（慰霊祭参加者のみ）

・寄付金　任意（ご協力よろしくお願いいたします）

・直会旅行代（ご希望者のみ）

一名　２万５千円

同封の郵便振替用紙で2月末日までにお振込み下さい。

マーシャル方面遺族会 永代神楽祭斎行

米林義昭

平成28年7月15日、本会の永代神楽祭が斎行されました。

神官の祝詞奏上の後、笛、太鼓の演奏に合せて巫女の舞が奉納されました。

当日はあいにくの雨でしたが、昨年から中止になった屋台もなく、静かな境内には提灯が並び別世界の雰囲気を漂わせていました。

＊参加者（順不同・敬称略）

東京都　井上賀雄　米林義昭　米林美智子　黒川誠　福永弥生　内海淑子　松江孝枝　星野綾子　中村順子　中村秀夫　埼玉県　佐藤知子　高林芳夫　高林正子　小室貞男　小室洋子　神奈川県　石澤洋子　岐阜県　吉田正明

全国戦没者追悼式に参列して

高林芳夫

今年も東京九段の日本武道館で政府主催の全国戦没者追悼式が挙行されました。参列者は６６００名でした。

天皇皇后両陛下ご臨席のもと、一同国歌斉唱、安倍内閣総理大臣の式辞、正午の時報に合せて一分間の黙祷が捧げられました。続いて天皇陛下がお言葉を述べられました。その後、来賓、遺族代表の追悼の辞があり、天皇皇后両陛下がご退席。内閣総理大臣、各界代表、都道府県遺族代表の献花が続き、最後に厚生労働大臣の献花で式典は終了致しました。

今年の追悼式で感じた事。それは天皇皇后両陛下がご退席になられる時の事です。席を立たれ二、三歩進まれた時、遺族席から、「天皇陛下万歳」と大きな声が掛かりました。すると両陛下は歩みを止められ、くるりと後ろを向かれ遺族席に向かって大きく一礼をされました。遺族席からは大きな拍手が起こりました。式場を退場される最後にも再び遺族席に

向かって大きく一礼されました。この様な事は過去記憶にございません。

先日表明された生前退位と関係があるかどうかはわかりませんが、陛下にとってこれが最後の式典であるかのような一抹の寂しい印象を受けたのは私だけだったでしょうか。

両陛下が末永くご健康でお元気であられますようお祈り申し上げます。

全国戦没者追悼式

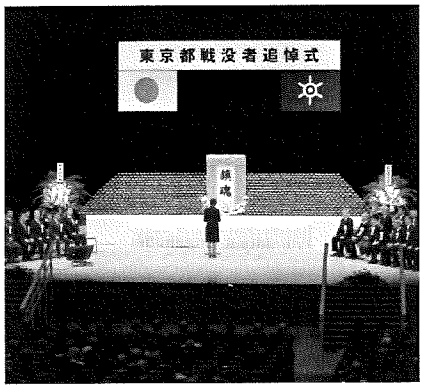
＊参加者（順不同・敬称略）
米林義昭　米林美智子　内海淑子
中村順子　星野綾子　間々田征史
間々田邦子　高林芳夫

東京都戦没者追悼式

井上 賀雄

昨年の8月15日は、東京都戦没者追悼式（文京シビックホール）に参列、東京都の遺族ら730名が列席しました。国歌斉唱の後、新しく東京都知事になられた小池百合子知事の式辞。その一部を紹介します。

「この平和と繁栄は、戦禍の中で亡くなられた多くの方々の尊い犠牲の上に築かれたもの……悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにも、その記憶を風化させることなく、次世代に継承していくことが、今ここに生きている私たちに課せられた使命……」などと述べられました。同感です！



東京都戦没者追悼式

正午の時報に合わせて全員で黙祷。

日本武道館全国戦没者追悼式における天皇陛下のお言葉は、シビックホールにもそのまま放送され、拝聴することができました。都議会議長や遺族代表が追悼のことばを述べた後、知事や遺族らが献花を行い約1時間で閉式。荘厳な追悼式典でした

靖国神社秋季例大祭

井上 賀雄

10月18日、マーシャル方面遺族会を代表して秋季例大祭に参列いたしました。拝殿横の中庭（玉砂利）にも椅子を置くほど多くの参列者の中、午前10時開式。

勅使ご到着後、本殿で御祭文を奏され、宮司御祭文を内陣に収められた後、勅使玉串奉奠拝礼。勅使下向後、「鎮魂頌」「靖国神社の歌」を全員で合唱しました。

宮司の玉串奉奠拝礼。のちに特別参列者、崇敬者総代が本殿に進み、玉串奉奠をいたしました。

最後に参列者全員が順次、本殿に進み

拝礼、退出。祭式は約1時間半でした。
さすが厳かにも立派な靖国神社秋季例大祭でした。

当会主催の現地慰霊について

当初の予定では平成28年11月24日より30日までの予定でしたが、現地クェゼリン基地司令部の都合により、訪問日時が延期となりました。
ただいま関係者と訪問日時を調整中ですが、平成29年1月26日からになる予定です。現地慰霊報告は次号36号に掲載いたします。

寄付者ご芳名

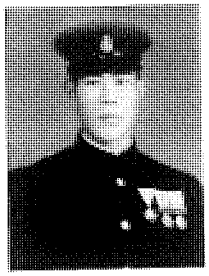
（平成28年7月～11月まで）
次の方よりご寄付をいただきました。
熊本県　植川二男　様
広島県　佐々木千鶴子　様
京都府　東地井義訓　様
茨城県　北條晃　様
福島県　遠藤貞顕　様
ご寄付ありがとうございました。

訃報

熊本県　右山定　様
愛知県　安藤昌子　様
広島県　植田敏裕　様
謹んでご冥福をお祈りいたします。

戦地からのお便り

＊小室洋子様よりご提供いただきました。



父・海軍兵曹長・近藤八郎氏（第六六警備隊、クエゼリン島にて昭和19年2月6日玉砕、享年28歳）の遺品、軍艦「霧島」高射砲検定の賞状と、靖國神社で社頭掲示された家族への手紙、その新聞記事をご紹介いたします。

長崎県　五島列島出身
小室洋子（旧姓・近藤）

このたび、父の故郷である五島列島に帰り、衣装箱の中から偶然、七十二年ぶりの父の形見である「賞状」を見つけることができました。
生前、母は、父から「遺言状は戴いたけど、ほかに形見がない」と言っていただけに、賞状を見つけたときには、父の引き合わせを強く感じました。
永い間、何か形見があれば、と願っていましたので、大変嬉しい出来事でした。
賞状は父母の遺影の傍に飾りました。きっと母は天国でこの賞状を見ながら、安心して笑顔で父との語らいを楽しんでいると思います。

賞状
海軍等兵曹　近藤八郎
右昭和十四年軍艦霧島十二七糎高角砲
高射機員ノ職ニ在リテ高射機検
定ニ参與シ優等ノ成績ヲ得
タリ仍テ茲ニ賞状ヲ授與ス
昭和十四年十月三十日
第一艦隊司令長官山本五十六

最期の手紙

千の風になった御霊たち

海軍兵曹長　近藤八郎　命

第六十六警備隊
昭和十九年二月六日
マーシャル群島　クェゼリン島にて戦死
長崎県出身　二十七歳

短期間の実に楽しい結婚生活であった。厚く御礼を申す。俺も此の度は生還は覚し難し。武人の妻として誇を持ち絶対に取乱してならぬ。七転八起の精神を振ひ起し、世の荒波を乗切る様。くどい事は申さぬ。幾時も申してゐた言の葉を思ひ起し、老先短き両親に仕へる様。尚坊やの顔も見たいけど致方ない。清く美しく育てて呉れ。

清く美しく育てて呉れ

マスエ殿　敬具

夫より

（靖國神社・社務所　平成十八年四月　拝殿・社頭掲示）

産経新聞（平成19年8月1日）掲載

明治天皇御製

花　（明治二十五年）

ちはやふる　神の齋垣の　花ざかり
まうづる人も　おほき春かな

清く美しく育てて呉れ

海軍兵曹長　近藤八郎　命

第六十六警備隊
昭和十九年二月六日
マーシャル群島　クェゼリン島にて戦死
長崎県出身　二十七歳

短期間の実に楽しい結婚生活であった。厚く御礼を申す。俺も此の度は生還は覚し難し。武人の妻として誇を持ち絶対に取乱してならぬ。七転八起の精神を振ひ起し、世の荒波を乗切る様。くどい事は申さぬ。幾時も申してゐた言の葉を思ひ起し、老先短き両親に仕へる様。尚坊やの顔も見たいけど致方ない。清く美しく育てて呉れ。男子の場合は姓名近藤征一郎。女子の場合は姓名近藤洋子と命名して呉れ。暑さ寒さに留意され自愛専一に。

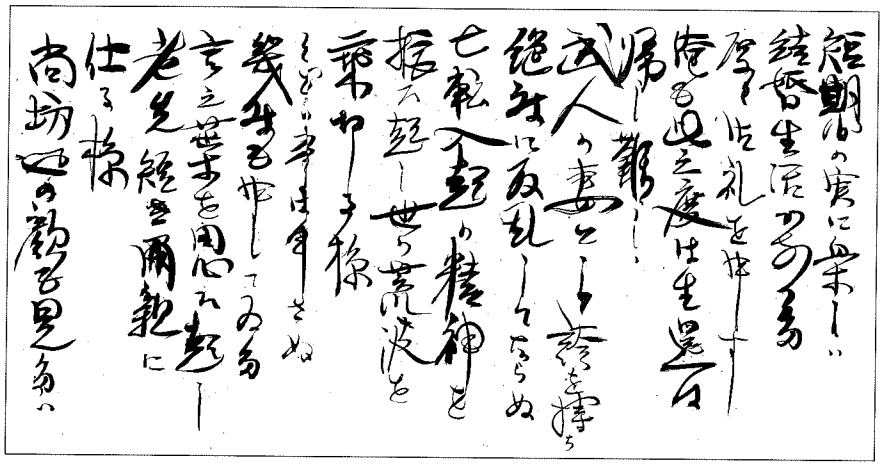
二十二日夜認ム

マスエ殿　敬具

夫より

（靖國神社・社務所　平成十八年四月　拝殿・社頭掲示）

靖國神社で社頭掲示



手紙原文

＊吉田正明様よりご提供いただきました。

父・陸軍中尉・吉田壹二様（クエゼリン島にて昭和19年2月6日玉砕、享年39歳）より届いた、ご家族宛のお手紙をご紹介いたします。吉田中尉の部隊は、満洲扎蘭屯（ジャラントン）の独立守備歩兵第十五大隊。海上機動第一旅団第二大隊（駆（かける）3132部隊）に編成され、昭和18年12月7日に扎蘭屯を出発し、昭和19年1月10日にクエゼリン島に到着。吉田中尉は大隊長・阿蘇太郎吉大佐の副官として赴きました。文面は家族と肉親への思いやりにあふれています。

拝啓　皆様御達者ですか。僕も相変わらず元気で軍務に服しております。

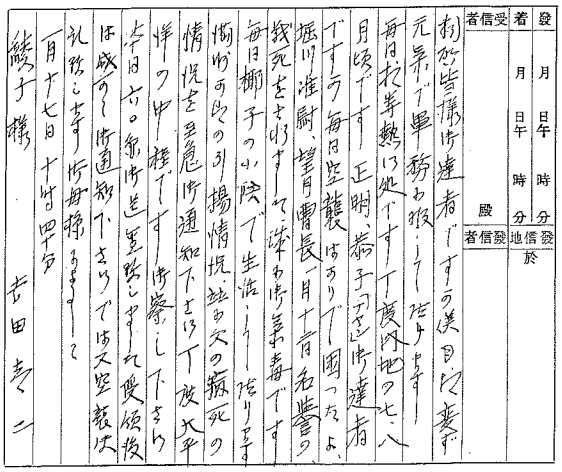
毎日ここは熱い処です。丁度、内地の七、八月頃です。正明、恭子チャン（子供）御達者ですか。

毎日空襲ばかりで困ったよ。堀川准尉、望月曹長1月12日名誉の戦死をされました。大変お気の毒です。毎日椰子の木陰で生活しております。

満洲からの引き揚げ情況、並びに父の病死の情況を至急ご通知ください。丁度、太平洋の中程です、お察しください。

本日六十円ご送金いたしました。

受領後は成るべくご通知ください。
では又空襲、失礼いたします。御母様によろしく。
昭和19年1月17日　10時40分
綾子様　吉田壱二



手紙原文

＊会員の皆様へ
本部では戦地からのお手紙や、記事、遺品のお写真など募集しております。ぜひ本部へご連絡ください。

連載④
未だに多くの戦友が眠る飢餓の孤島
ウオッゼ島
■筆者 吉田誠さん
（平成24年7月2日　91歳でご逝去）

第二次世界大戦　私の戦争過去帳

●大井和子さん（東京都）よりご提供いただきました。

名誉の戦死

南部探知機方面からB―25爆撃機が低空爆撃、都度本部方面に上申するも返答なし。13㎜機銃員（射手・甘粕（鎌倉）、伊藤（宮城県））は頑張り、一機を墜落したあと2名とも名誉の戦死。可愛がっていた2人で明るい人物だった。役に立たない予備士官たちは何時もの机上作戦？それで答えがでるか？即行動することだ。空襲があると我れ先に穴に逃げていたのは誰だ。主計科が保管していたカルピス200本も遂に……。夜間、米軍機からカラーで印刷したビラがまかれた。初めて見た。当時は白黒以外何も知らず。

終戦

終戦は8月15日であったが、当方の通信機器及びラジオ等の破損により解らず。実際に知ったのは、17日であった。

米軍機が終戦のビラを散布したが、我々は信用せず、F4U戦闘機を地上砲台で撃墜した。墜落させたのだが米軍の調査で当方の当時の状況から戦犯扱いとならずに済んだ。

約1週間後、米軍の報道により、駆逐艦が白旗をつけてトートン水道から中央桟橋沖に停泊し、海兵隊員が上陸したとのこと。私たちは見つけられなかったが、のちに彼らは私たちの陣地近くにもやってきた。服装は半ズボンとサングラス、白靴下と軽装でピストルは着用していた。各陣地を歩いたようであったが、私たちのほうには5～6人だったと思う。

その後、LSTが接岸し、食糧、医薬品が司令部近くに集積。我々が持っていたすべての銃器、弾薬は滑走路に集められた。幸いにも米軍とのトラブルは一切なかったと聞く。その間、終戦を知ってか知らずか、栄養失調の兵士が死亡していった。

つづく

平成28年)9月24日　土曜日　朝日新聞（夕刊）　1892年3月11日第3種郵便物認可

©朝日新聞社 2016年

戦場日記の父 やっと会えた

ウオッチェ環礁で父冨五郎さんの慰霊祭を行った佐藤勉さん＝4月19日、勉さん提供

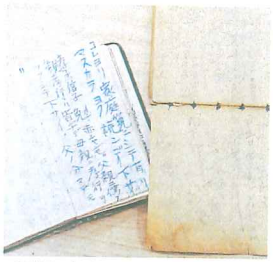
佐藤冨五郎さん

皆ンナデ母親ニ孝行ツクシテ下サイ
父ノ分マデ 仲良ク クラシテ下サイ

敗戦が迫る1945年4月。太平洋戦争の戦地・マーシャル諸島で、1人の日本兵が絶命した。死の前日まで手帳とノートに日記をつけていた。71年後の今春、息子は日記に導かれるように、父が眠る地を訪れた。終戦の日の8月15日、自宅近くの墓に参り、父と語った。月命日の同26日にも墓前で「早く遺骨を収集しますね」と改めて誓った。

デジタル版に動画

永眠の地 マーシャル諸島訪問



佐藤冨五郎さんが日記を書きつづった手帳とノート

孝子、信子、勉、赤チャンモ。父親ニ恵ス親孝行ハ皆ンナデ母親ニ孝行ツクシテ下サイ。父ノ分マデモソシテ家内仲良ク兄、弟、姉、妹、仲良ク クラシテ下サイ。元気デ ホガラカニ オイシイモノデモタベテクラシテ下サイ

日記をつづった手帳には妻子に宛てた遺書のような記述もあった。海軍一等兵曹の佐藤冨五郎さん（享年39）。東京市電気局（現・東京都交通局）のバス運転手で、43年春に出征した。

海軍第64警備隊に所属し、43年8月1日、当時日本の委任統治領だったマーシャル諸島のウオッチェ環礁に着いた。真っ青な海と空に囲まれた島で、食糧の増産に従事する中、米軍の攻撃にさらされ続けた。

「爆撃有リ」「空襲有リ」「空爆有リ」

日記にはこんな記述が続く。米軍の上陸は防いだが補給は途絶え、食糧事情が悪化。餓死者が続出した。

44年10月には「農園作業本腰」。コーリャンやカボチャ、トウモロコシなどを栽培した。次のような小隊長訓示も書き留められる。

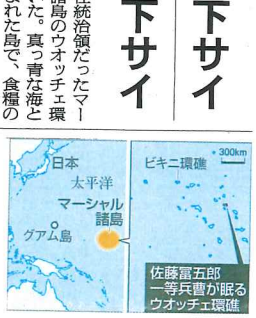
「本島三千五百人ハ既ニ二千七百名滅ス」「ガシスルノデ 農園作業開始」「不平不満ノモノ銃殺。見込ナキ病人モ自ケツ」

そして45年3月5日。

「昨日カラ急ニ体ガ弱ッタ。気ハシッカリシテ居ルガ足キカズ、モウ死ノ一歩前ト思フ」

床に伏せる佐藤さんにはわずかな食べ物も配られず、45年4月25日、日記はこんな記述で途絶えた。

「全ク動ケズ苦シム 日記書ケナイ 最期カナ」



戦跡たどり 祭壇を設け慰霊

日記が書かれた手帳とノートは、敗戦後の46年12月ごろ佐藤さんの戦友から家族に郵送された。手紙には45年4月26日に亡くなったと書かれていた。

佐藤さんの埋葬に立ち会い、家族に届けてと日記を託されたと書かれていた。

家族は、佐藤さんの実家がある宮城県に疎開していた。長男勉さん（76）＝同県亘理町＝は当時5歳。叔母が手紙を読み、父の死を実感して泣いた記憶がある。

日記は仏壇の引き出しにしまわれた。中学生の頃から、つらいときや悩んだときに日記を取り出した。

「まじめに頑張ろうと自分を奮い立たせた」

96年。勉さんは地元の遺族会に入り、慰霊ツアーで沖縄県糸満市の摩文仁の丘を訪れた。宮城県の戦没者碑の前に「無事に届きましたよ」と日記を置いた。この時、劣化して難読部分も多い日記の全文を読みたいという思いがこみ上げた。

55歳で食品会社を辞め、タクシー運転手に。2005年7月、偶然、東北大院の教授だった仁平義明さん（69）＝現・白鷗大学教育学部長（心理学）＝を客として乗せた際、父の日記の解読をお願いした。

「セメテ 天丼デモタベタイ」

45年4月21日にこんな記述があったとわかり、佐藤徳子さんの命日に勉さんの妻・徳子さん（71）手作りの天丼を供えるようになった。

戦友の手紙によると、埋葬地はウオッチェ環礁本島の第64警備隊本部の近く。

今年4月、マーシャル諸島で働いた経験のある20、30代の若い日本人3人の協力で9日間ウオッチェ環礁に滞在。1周約6キロの本島を歩き回って戦跡をたどった。警備隊本部近くのヤシの木の根元にスーツケースを埋め、祭壇を作って花やココナツを供え、日記や写真も置いた。「初めて感情のこもった慰霊祭ができた」。小舟を借り、父が2年弱を過ごした離島も訪れた。「お父さん」。涙があふれた。

「日記を通じて追いかけてきた父に、やっと会えた気がします」（寺尾佳恵）

ウオッチェ環礁

日本の南東約4500キロに位置する。サンゴ礁の海面に出た部分が環（わ）の形をした島で、太平洋戦争中、日本軍は南進の拠点の一つとして部隊を置き、米軍の空爆を受けた。厚生労働省によると、ウオッチェ環礁の戦没者は約2900人。兵士の記録などによると、多くは餓死だった。現在は米国が水爆実験をしたビキニ環礁などと共にマーシャル諸島共和国に属する。

Tokyo Evening
2016年（平成28年）
9月24日
土曜日 夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

●前号でご紹介いたしました宮城県の佐藤勉さんの「ウオッゼ島慰霊」が朝日新聞東京版夕刊（平成28年9月24日）の一面に掲載されました。

●会員の皆様へ
次世代へ、永く英霊の顕彰が引き継がれますよう、ぜひ当会会報を子や孫の世代に回覧し、英霊のお話を語りつないでください。きっと英霊も喜ばれると思います。